

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292600143		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム八千代高津		
所在地	千葉県八千代市高津850-16		
自己評価作成日	平成31年1月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常にとにかく楽しく、安全にそして笑顔でという八千代高津の理念のもと職員だけではなく入居者様も楽しく暮らせるよう行っています。また入居者様一人ひとりに合った支援を常に話し合うことを目標に入居者様のできる能力を活かした役割を持って頂けるよう支援しています。また、スタッフも介護の知識を高めれるよう、勉強会やディスカッションを通して学んでいます。入居者様とスタッフがまず、ユニット関係なく時には喧嘩し、笑いあったり、うれし泣きなど第2第3の家族になれる様に入居者様と関係性を作っています。外部からのボランティア様や、退居された入居者様のご家族様もよく来ていただきご指示やお話も聞いて下さることが多くある為、今後も継続して雰囲気よく楽しいホームを目指していきたい。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

出来る事は自分でやって頂くという自立支援のもと、自主性を尊重した生活支援に取り組んでいる。職員たちの意識としては、自分たちが楽しくないことを入居者の方たちにサービスの提供をしても何ら意味をなさない、という発想で入居者、職員と一緒に楽しめることは何かを念頭に置いて行動している。このことから1階、2階のユニットを分け隔てなく一緒になって行おうという認識で、散歩でも合同で行われることが多い。近隣の法人グループ施設間の交流も活発に行われており、八千代市内での合同合唱会、市原市での合同運動会等他施設の人たちとの交流も活発である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	平成31年2月4日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念をタ礼の際に復唱し、スタッフ全員が理念を共有し、理解できるよう実践をしている。	法人の理念は各階の事務所に掲示され、タ礼や、全体会議、ユニット会議の場で唱和し共有している。また、法人の理念を管理者がホームの理念に落とし込み、「地域のひととのふれあい」に特に力を入れて実践していくよう伝え取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方が交流をする機会が増えてきている。ホーム側からではなく、ボランティア様から連絡が来て遊びに来て下さることもある。	八千代市社会福祉協議会からの紹介による多様なボランティアとの交流が増加している。また、以前の入居者の家族がボランティアに来てくれるなど、幅広い交流がなされている。自治会からは地域の夏祭りに招待され、日常の散歩では近所の人とも顔なじみとなって名前を呼んで挨拶をしてくれるほどに親しくなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症とは何かをスタッフ一同で学び、地域の人たちに少しでも認知症の理解を深められるよう行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況説明及び、活動報告やスタッフ、入居者様の悩みも運営推進会議を通して、ご意見をお聞きする機会を持つようになっている。	会議は2ヶ月毎に年6回の開催があり、地域包括、民生委員、自治会、家族、ホーム職員等が参加している。ホーム状況、行事、事故、などの報告とその対応についての検討や、「食事を食べたいけれど食べられない入居者の悩み」などの相談事を話し合って運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携を取る様に心掛けています。今後も協力して関係性を強められるよう行っていきます。	長寿支援課には、料金改定などに関するお伺い、他市の住民で家族が当市の場合の受け入れ可否、提出書類の内容や期限の確認などで訪問する機会も多く、良好な協力関係である。また、参加している八千代市グループホーム部会では行事、ホーム状況などの情報共有や事例研究などが行われ、その内容は行政にも報告されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	メディカル・ケア・サービス株式会社の取り組みとして、不適切なケアチェックを2カ月に1度各スタッフに実施しその後の対応など全員で周知するようにしている。	「虐待と不適切ケア、身体拘束チェックシート」を2ヶ月に一度全職員が記入している。3ヶ月に1度の「虐待、身体拘束の委員会」は主メンバーで構成され、チェックでの留意点などを話し合い、全体会議での周知や研修に取り入れている。研修では実際に自分が縛られた時の意見を聞くなどして、虐待や拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待、身体拘束の委員会を作り、話し合ったことをユニット会議または、ホーム会議にて周知できるようにしている。また研修を行う機会があり、テスト形式にし理解できるように行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在理解できている職員が少ない状況がみられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム管理者がご入居契約等を行っており、その際に不安や疑問点を聞き納得して頂けるよう心がけています。また、その都度でもご家族様にもご理解頂ける様に心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	メディカル・ケア・サービス株式会社の取り組みとして、年に1度ご家族様アンケートを実施しその後結果をもとに改善できるよう計画している。	法人として年一回の家族アンケートを実施し分析が行われ、ホームにフィードバックされる。運営面や職員の育成面などの課題は会議で話し合い、新年度のホーム目標として玄関に貼り出し、ご家族にも見えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	メディカル・ケア・サービス株式会社の取り組みとして、年に1度スタッフアンケートを実施している。また、アンケートだけではなく、その都度話を聞けるようにしている。	スタッフアンケートを年に一度実施しており、会社や上司に対する要望及び自身の未来についても問われている。それは本社で分析され、運営面や待遇面など会社としての対応や、スタッフの能力育成とモチベーションの向上に役立っている。また、半年に一度、ホーム長と職員は個別面談にてコミュニケーション機会も増やしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上記同様にスタッフアンケートを実施しています。アンケートもとにメディカル・ケア・サービス株式会社側は各従業員が向上心を持って働ける様取り組みを行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各役職に合わせ社内研修を行っております。また、資格取得制度等もあり働きながら資格を取得する事もできるよう社外研修の参加も促し参加できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八千代市グループホーム部会に参加し、市内のグループホームとの交流を行っている。また、事例検討会等も行い、困難事例やホーム側の悩みも聞き八千代市全体として働けるよう関係を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に理解できるよう全員で協力を心掛けています。困っている事等、見抜けるように関係性を作ることを重要視している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が安心してサービスを利用できる様にご要望等あれば、お話し関係性も強められるように心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にケアマネージャーと共にご本人または、ご家族の所へ訪問し思いを伺い、その人に合ったサービスを提供できるように努めています。また、理解もしていただくためにしっかりと相談をし関係性を作っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様に合った介護を常に探し、スタッフも年齢関係なく協力し合い関係性が作っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月にお便り(近状報告)をご郵送したり、電話や面会時にもスタッフ全員で、ご報告等できるように心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの知人やご家族様など途切れない様にご連絡や面会をしていただけるよう努めています。また、ご入居者様のキーパーソンだけではなく(お子様・お孫様)の面会も多くなってきたように感じます。	入居者の「会いたい」との声からお孫さんの来訪も増加しており、お孫さんからの吉報には一緒に喜ぶ姿がある。面会表を確認して、よく訪問してくれた人が来なくなった時には訪問を促す連絡をし、お墓参りなどはご家族の協力を得て、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが常に支えあえる関係性を作れるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後に関して、積極的にご連絡する事はあまりありませんが、その後の様子など連絡や、他施設など訪問もし関係を途切れないようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や本人の行動をみて、一人ひとり何を求めているか理解できるように心がけています。	本人の思いや意向がどこにあるのか、毎日の生活の中で発せられた言葉を職員は聞き逃さずに、各フロアに置かれている「ケース記録」に日々書き込みを行っている。職員はこれに目を通すことでその人の思いを汲み取って、対応することになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様・ご家族様との会話や生活歴を調べその人に合ったサービスを常に探し反映できるように心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で、入居者様の状態を確認し状況把握に努めております。また、変化があればすぐに報告するようにし全員で動けるように心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議等で入居者様の現状の問題等を話し合いをしたり、それをホーム全員で統一できるようにユニット関係なく行っている。	ユニット会議で現場の意見が出され、それを全体会議で諮られ職員共有の場としている。議事録は1階と2階の事務所内で管理され、後からでも確認できるようになっている。介護計画はユニット会議、往診医および家族の意見を参考にして、ケアマネージャーが作成し家族に説明するという段階を踏んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子を記録し、職員間で情報共有し、必要に応じ、ケアの見直しを行っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニット関係なく連携を行いながら可能な限り柔軟な対応をできるよう話し合っています。また部会などを通してどんなサービスがあるかなど話し合う機会も多くなってきています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や近隣のごみ拾いなどを通して交流できるように心がけています。また、近くの幼稚園や小学校も近くにある為下校帰りなどたまに寄っていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診時以外でも急変時等相談事があると24時間往診医との連絡が出来る様になっております。また、SNSを利用し情報共有を行っており、常に関係性を築けるよう努めています。	かかりつけ医の内科に掛かっている人が1名、家族の協力を得て通院している。その他17名は提携医による月2回の往診を受けている。当ホームの特徴としてメディカルケアステーションという医療介護専用SNSを使い、職員、医師、看護師、薬剤師、ケアマネとの連携が取れるシステムを利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護日以外でも24時間直通電話を使用し訪問看護師と相談を行い、個々にあった対応をできる様に努めております。また、訪問看護師も往診医と連絡を取れるよう連携を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療関係者と話し合い状態の報告や確認し早期対応また、早期退院を出来る様に努めております。また、カンファレンスも行っていたり連携をとっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、医療、ご家族と話し合い、本人様の様子、気持ちなど統一して行えるようホーム側から動くようにしています。常に話し合い、連携を図り、どんなことも対応できるように協力しています。また、研修等も行い、医療側からの研修も参加しています。	ホームとしての重度化への対応を明確にするため、入居時に「重度化した場合」という契約書を取り交わしている。当ホームは看取りまでの経験があり、「看取りについて」のマニュアルも整備されている。今回、訪問看護師に講師を依頼しての内部研修を行うなどで看取り支援が適切に行えるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの設置を行い対応に備えている。また、今後救急救命講習等開催し実践力を身に付けて頂く様に考えております。またその場面になった時に落ち着いて行動できるよう考えながら行うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回日中・夜間想定で、実施しております。またその場面になった時に落ち着いて行動できるように考えながら行うようにしている。	今年度は9月と3月に消防訓練が実施される。火災・水害・地震等の対策マニュアルは本部作成のものがあり、消防訓練時に研修が行われている。訓練には入居者も参加しての消火訓練も行っている。運営推進会議でも災害時の話が出ており、地震の時の一時的な避難所としてホームを利用できることを自治会長には伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自立されている方も多いため個人の時間を大切に考えておりますが、たまに職員優先な対応があります。また、声掛けに関しては、入居者様に合わせ対応をしておりますが、スタッフ目線で見てしまうことも見られています。	出来る事は自分でして頂くということを基本に置き、自主性を重んじて接しており、そっと見守って何かあれば直ぐに対応することを心掛けている。但し、プライバシー面からは声掛けのタイミング、声の大きさなど特に排泄に関しては注意を払っている。「プライバシーを守る」研修をホーム長が講師となって、全体会議の中で年に1回実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、希望や自己決定ができる環境になっていない時があります。言いやすい雰囲気を作ることができるようにしていきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	たまにスタッフ優先で行っていることがあり、都度入居者様のペースで過ごせるよう一人ひとりの理解をできるようにしていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用したり、近隣の床屋に行かれたりする方もいらっしゃいます。女性入居者様が多い事もあり、外出する際は女性職員が化粧を手伝ったり男性職員は男性の入居者様にひげや髪を整えるなど行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳などを入居者様と共に行っております。また、食事レクなども定期的に行うようにしています。	調理スタッフ2名が交替で、ホーム内で食事を作って提供している。食材の買い出しには入居者も同行し、一緒に料理を作るといった感触も味わってもらっている。グループ会社から調理師を派遣してもらい、寿司、天麩羅などを目の前で作ってもらう食事レクは、入居者に大変喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理指示書をもとにバランスの摂れた食事を提供しております。また、各入居者様に健康管理記表を付け、水分量・食事量等の把握を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア実施と週一回訪問歯科があり、先生が来て下さる為、口腔内の様子や入居者様の訴えに応じ、訪問歯科コーディネーターと相談し対応をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握を健康管理表を使用し行っており、本人様ができるだけトイレで行えるように職員二人で介助をしております。	排泄、水分、食事、入浴等が記載された「健康管理表」を読み取って、職員は排泄の支援に努めている。なるべくトイレに座って腹圧による方が排泄しやすいことから、重度の方には職員二人でトイレ介助を行うようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量・食事量・活動量を全員で把握するように心がけ支援しています。それでも難しい場合は、往診医、訪問看護とも相談し連携を図っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりに聞き、タイミングを見て合わせて対応している。時間や洗体のやり方など合わせて支援しています。	入浴を嫌がる人に、家族から「家のお風呂が壊れているからホームのお風呂に入って」と、手紙に書いてもらい、入浴がスムーズになったことがある。入浴にも家族の協力が功を奏している一例と言える。また、脱衣所に音楽を流し風呂場に行きたくするような雰囲気づくりや、季節に応じたゆず湯、菖蒲湯などの趣向を凝らした努力の積み重ねも見られる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や、本人様の状態をみて、声掛けや居室内の環境整備に取り組んでいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・訪問看護師・薬剤師など相談、連携しスタッフが薬について理解できるようにしている。まだ理解できていないスタッフもいるが、薬の重要性と副作用など理解できるように声を掛けていきます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにあった役割を持って頂くようスタッフ全員で動いています。また、意欲が出るように声掛けや、レクリエーションして楽しく生活できるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様や、ボランティア様にも協力して頂き、一人ひとりに行きたい場所、食べたいものなど思いを叶えられるように現在行っています。	ホーム周辺を15分程回る朝の散歩では、1階と2階のスタッフが一緒に引率して外の空気を吸うようにしている。ボランティアに来ていた方から「私が見守っているので〇〇さんを外に連れていってあげたら」と協力の申し出を得て外出支援を増やせることもある。ホームの年間行事には周辺のグループ内施設と共同で合唱コンクール、10月には市原市内で大運動会への参加といった楽しみも組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルを考慮し、ご家族に説明し、ご本人・ご家族の承諾の上で、金銭を持たれている方もいらっしゃいます。また、必要に応じて本人様の必要なものや食事、飲み物を購入されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際に本人自ら電話できる環境です。ご家族様にも伝え、ご家族様からも電話しやすい環境を作っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や入居者様が作成したものを掲示したり、いろいろなレクリエーションなどの写真などを掲示するなど、入居者様、ご家族様にもわかるようにしています。また音楽をながしたり、一緒に歌うなどし居心地良く、そしてADL向上に努めています。	一日の生活をくつろいでもらうためにも、入居者同士好き嫌いもあるためグループ分けして席を決め、気の合った者同士が雑談できるような工夫をしている。リビングでは、転倒防止の意味から直ぐに手を出してつかまることが出来るような家具の配置に気を配っている。歌の好きな方が多く、カラオケセットが置かれマイクを片手に皆で声を張り上げ楽しんでいる姿を見掛けることも多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様に合わせた座席配置をしております。気の合った入居者様同士や、新規入居者様でもすぐになじめるようにその都度環境整備を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面等を考慮しつつ、自宅で使用していたご本人の馴染みのある家具等を入居時に置いて頂く様にご家族様に説明し、設置して頂いております。	使い慣れた物の持ち込みには職員が引っ越しの手伝いをして、入居前の生活状況、物の配置を確認し、入居後は安心して暮らせるように配慮している。安全面からは、転倒しやすい人には掴まりやすい家具の配置や居室入口に近いところへのベッドの配置、居室自体をフロアやトイレに近いところに移動してもらうなどの配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチンやフロア内は、基本自由に行き来ができ、刃物などは、スタッフが管理し安全性を高めています。各居室には入居者様の写真を貼ったり、本人様が過ごしやすくなりやすいようにラベルなど貼り支援しています。		